

申9号 事象の本質を踏まえ原因究明し安全第一の職場を創り出す申し入れ 提出!

2024年3月25日12時56分頃、八戸線442Dが長苗代駅～八戸駅間走行中、業務用携帯電話の着信を認め停止手配を行い八戸貨物駅構内に停車しました。その後、当該乗務員が業務用携帯電話を確認し八戸統括センター乗務ユニット当直からであるため、折り返し連絡をしたところ「八戸駅での回金回収はない」との連絡を受けました。当該乗務員は八戸統括センター乗務ユニット当直に「走行中であったこと、八戸貨物駅に停車していること、運転再開の指示を指令から受領する」旨を伝えました。その際、八戸統括センター乗務ユニット当直より「すでに八戸駅到着後であることを誤認した」「停車させたことは当直から輸送指令へ連絡するので、無線連絡は不要であり運転を継続するように」と指示を受けました。当該乗務員は何度も「本当に指令に連絡しなくてもいいのか」と確認をしましたが、八戸統括センター乗務ユニット当直からは「こちらから連絡するので大丈夫」と伝えられ、本当に大丈夫なのか不安に思いながらも運転を再開してしまい八戸駅には7分遅着しました。

今回の事象は掲示等で周知されていますが、その内容は『列車が停車した事象』となっており、停車したという事実だけが大きく映し出され、停車した理由や八戸統括センター乗務ユニット当直の指示により運転再開してしまった理由が大きく映し出されていません。また掲示物の最後には『自身の作業を振り返り再確認してください』と記載され、八戸統括センター乗務ユニット当直からの着信が無ければそもそもこのような事象が発生しなかったにもかかわらず、乗務員が悪いのかのような映し出しをしています。

2023年11月7日に発表された『グループ安全計画2028』でも『本質をふまえ、想定外も想像して安全を先取る』とし『築いてきた「安全文化」や安全の「しくみ」「設備」など、安全の基盤を強固にし、『これまでは想定外であったリスク』を本質の理解により想像し、安全を先取る』と謳われています。今回の事象に当てはめれば、そもそもの原因が社員に明らかにされず、本質の議論ができなければ安全を先取することはできませんし、仕事の本質を理解することはできないと考えます。八戸統括センター乗務ユニットで発生している事故の芽は、今年に入ってから乗務員への伝達漏れ、臨時作業の作成ミス、出区番線の計画ミス等多く発生しています。しかし原因が明らかにされずどのような対策が立てられているのか社員が知らず、社員と管理者間の信頼関係にも関わってくる職場風土になっていると危惧しています。JR東日本グループの基盤である『「安全」が経営のトッププライオリティ』であるならば、原因をしっかりと究明し対策を立てていくことが安全レベルの向上につながりますし、嘘、ごまかし、隠ぺいが横行すれば、経営を揺るがしかねない大事故が発生してしまうと考えます。

発生した事象を共有し真実を認識し原因を究明できる職場、さらに安全を守るための対策を打ち立てられる職場を構築するために下記の通り申し入れをしました!

1. 2024年3月25日に発生した八戸線442Dの事象についての支社の見解を明らかにすること。
2. 統括センター乗務ユニット当直が業務用携帯電話へ架電した理由を明らかにすること。
3. 統括センター乗務ユニット当直が「本線を走行する列車の運転再開指示」ができるのか明らかにすること。また、当直が「本線を走行する列車の運転再開指示」を出した理由と根拠を明らかにすること。
4. 掲示等による周知では事実と違う認識を持たれるため、関係社員に真実を周知し原因究明を行い、現実合った対策を講じること。

原因を究明し安全で働きがいのある職場をつくり出そう!